

南薩地域振興局では、地域の概ね10年後の「将来の姿」やそうなるため  
今回は、このビジョンに基づき地域で活動している住民・団体の皆さんの

## 挑戦2 笑顔と自然が織りなす観光地づくり

再び訪れたいと感じられる観光地づくりへの  
取組を行っています。



### 西大山駅での観光客のおもてなし、清掃・植栽ボランティア活動 (金子勝夫・庸子御夫妻 指宿市)

平成18年5月に横浜から移り住み現在6年目を迎えています。二人の散歩コースになっていた西大山駅(JR日本最南端駅)のテレビ放送をきっかけに、観光客が増えていることに気づいた私たちは、麦茶や手作りお菓子でのおもてなしを始め、それ以来観光客との出会いを楽しんでいます。



観光客とのふれあい

また、駅の草取りや花の植えかえといった環境美化・清掃活動にも取り組み、今年の5月には、西大山駅の名誉駅長に就任させていただきました。

九州新幹線の全線開業で短縮された移動時間を使って、西大山駅以外の観光地にも足を運んで頂ければうれしいですね。



金子 勝夫・庸子 御夫妻

### 南薩地域の魅力アップのために颯娃で頑張っています!! (シーホースウェイズ株式会社 専務取締役 加藤 潤さん 南九州市)

私は以前、関東地方に住んでいましたが、番所鼻自然公園をはじめとする颯娃の素晴らしい自然に感動し、平成22年2月に家族4人で移り住みました。



一緒に活動している地域の皆さん

現在、南九州市颯娃町別府で弟と、日本唯一のタツノオトシゴ観光養殖場を運営し、タツノオトシゴを使ったストラップやクッキーなど関連グッズの製作もを行っています。

このタツノオトシゴストラップやパワースポットとして話題の釜蓋神社がマスコミに取り上げられるようになって、ここ颯娃町別府に県内外の観光客の方々が訪れるようになりました。

私は「颯娃には海や大地の素晴らしい景色、お茶などの農産物といったダイヤの原石のような磨けば光る素材がたくさんある。」と思っています。そのような素材を広く知ってもらうため、地域の観光スポットを案内したり、毎週日曜日に釜蓋神社で、地元の採れた野菜や特産品などを販売する朝市を地域の皆さんとともに開催しています。

自分一人では限られていますが、これからも地域の皆さんと協力して颯娃から南九州市、そして南薩地域全体の魅力アップのために取り組んでいきたいと考えています。



加藤 潤さん

かの「取組」を示す南薩地域将来ビジョンを平成22年3月に作りました。  
取組等について紹介します。

## 挑戦1 南薩で生き活きと働ける地域づくり

働く場の確保が図られ、人々が生き活きと働ける地域となるため、  
南薩の「もの」や「ひと」を生かした新たな産業おこしへの取組を行っています。



### 南薩から世界へ向けて、いろんな製品を送り出しています。

(株式会社エルム 代表取締役 宮原隆和さん 南さつま市)

私は43名の社員とともに大好きなふるさとで、一次産業から三次産業、宇宙産業まで幅広い分野において様々な製品を開発する仕事をしています。

特にCDやDVDのキズやよごれをとり、きれいにする光ディスク修復装置は世界37ヶ国で利用され、自動光ディスク修復装置市場においては世界シェア90%以上を占めています。

最近では、LEDという、蛍光灯などに比べて長持ちで、二酸化炭素排出量も少なく、環境に優しい照明の開発にも取り組んでいます。



新社屋全景

環境問題については、以前から世界中で議論されていますが、技術者としてこの問題に率先して取り組む必要があると考えています。このことから、平成23年1月に新築移転した会社の面積は以前の2倍になりましたが、自社で開発したLEDを使ったり、新しい冷暖房システム(\*)を導入するなどして、電力使用量は80%におさえることができています。

私をはじめ社員は、世界を相手にものづくりができ、喜びややりがいを感じています。いつも「前例がないからこそ頑張ってみよう。」という気持ちで取り組んでいるところです。

\*夏場の熱を地中にたくわえて、寒い冬場に取り出して利用し、冬の冷たい空気を地中にたくわえて、暑い夏場に取り出して利用する冷暖房システム。



宮原 隆和さん

## 挑戦3 地域で支える健やかな暮らしと快適な環境づくり

行政・企業・地域が協働して子育てを支援する  
気運づくりの取組を行っています。



### 地域に溶け込んだボランティア活動

(紙ふうせん(母親クラブ) 会長 坂口ミコさん 南さつま市)

私たち「紙ふうせん」は、平成元年に内山田校区を元気にしたいとの思いから、子どもの遊び場であるキッズランド児童館を拠点にして、主に中高生の子を持つ母親を中心に活動を始めました。

「紙ふうせん」の名前は、「力を入れすぎず、そつと優しく、大きな息を吹き込んでみんなの夢をふくらまそう」との思いを込めて名付けられました。

現在、乳幼児とお母さんが親子で参加して、一緒に遊びながら親子の絆を強めたり、子ども同士や親同士の交流を図る「ハッピーママサロン」などの子育て支援や地域行事のボランティアなど活動を広げ、地域に溶け込んだ活動を行っています。

活動を始めた当初は、ボランティアに対する理解があまりありませんでしたが、地道に続けている間にだんだんと理解が得られるようになりました。「させられているのではなく、させていただく」という気持ちで、自分たちが楽しんで続けられることが大事だと思います。

今後は、高齢者の見守り活動を行うためのネットワークづくりなど、より一層地域の方々とつながりを深めていきたいと考えています。



ハッピーママサロンの様子  
(一番左が坂口会長)



キッズランド児童館は、地元木材を利用して改築し、平成22年12月に完成しました。  
(県のかごしま木づかい推進事業を活用)